

2010年(平成22年)8月31日(火曜日)

科学的観点から 食の安全見直し

三枝教授「賢い消費者に」

ト講演
ハで
橋
一
豊
七

「食の安全、安心と賢い消費者」をテーマにした講演会が、このほど豊橋市大山町の豊橋ハートセンターで開催された。

同病院の患者でつくるハート友の会が主催した定例イベントだ。講師に招かれたのは、豊橋技術科学大学の先端農業バイオリサーチセンター特任教授・三枝正彦氏。

遺伝子組み換えや、家畜の伝染病、産地偽装、有害物質の混入などが問題となり、消費者の食の安全、安心に関する関心が高まって

いることから大勢の人が集まり、熱心に話を聞いた。

三枝教授は、消費者が考え求める食の安全と科学者が考える食の安全には、大きなギャップがある」と前置きして、賢い消費者になるためには、科学的観点から考え見直す必要もあると強調。パワーポイントなど使って説明した。

また、急激な人口増による食糧供給問題では、日本は大変な時代を迎えると警告。世界の食糧自給率も紹介。フランスは自動車産業

など盛んで工業国と思っている人が多いが、100%に近い自給率を誇る。「自給率が低い国は、真の独立国ではない」といつている。ほとんどの食料を輸入に頼っている日本は、フランスから見れば独立国の仲間ではない。また、日本は資源に乏しいと考える人が多

いが、外国人は不思議がる。土壌改良して稲作や農業を本格化すれば、立派な資源国と農業を推奨した。

またどんな食品も完全に安心とは言えないが、逆に毒でも適量に使えば薬になるので、むやみに恐れる必要はない」と結んだ。

(星野のりこ)



お米は日本の宝と力説する三枝教授

豊橋ハートセンターで